

# 令和6年度 学校評価について

JCHO 東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校

## 1. 学校運営評価

本校では、教育の質の向上を目指して、学校運営、教育全般について年度ごと評価を行い、その評価結果から更に充実した学校運営を図る検討を行います。

## 2. 評価方法と結果

### 1) 評価項目

文部科学省「学校評価ガイドライン」、「専修学校における学校評価ガイドライン」、私立専門学校等評価研究機構「評価基準 Ver.4.0」を参考に9項目の評価内容において56の評価内容について評価しています。

### 2) 評価方法

【自己評価】常勤の専任教員全員により自己評価を行います。

【学校関係者評価】本校が選任した、外部講師およびJCHOグループ関係者等の評価委員により、自己評価の結果について評価を行います。

【評価尺度】0：あてはまらない 1：一部あてはまる 2：概ねあてはまる 3：十分あてはまる

## 3) 結果（令和6年度） 評価内容の評定平均値（評価点数0～3点）

評価項目	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
評価内容	教育理念 目的 目標	教育課程	教授 学習 評価過程	組織 管理運営	入学	卒業 就職 進学	地域社会 貢献 国際交流	教職員の 育成	法令等の 遵守
自己評価	2.93	2.81	2.69	2.68	2.78	2.70	2.37	2.48	2.96
学校関係者評価	3.00	2.87	2.83	2.85	2.83	2.78	2.56	2.50	2.89
具体的な取り組み	ディプロマポリシーを学生と共有し、自己成長と課題を自覚できるよう関わりました。また、ディプロマポリシー達成に向けて、学年ごとに到達して欲しい目標を検討し明示しました。 評価基準と評価方法を明確にして評価結果を教育活動に活かすこと、評価しやすい目標表現の検討などを行います。	教育環境を整うよう講師会議や臨地実習指導者会議、外部評価を受ける機会を設け、教育課程の改善につなげています。 臨地実習においては、より充実した学びができるよう、教員と指導者の連携や効果的な実習方法・指導のあり方を病院と共に行っています。	新カリキュラム開始3年目となり、教育課程全体(科目進捗や順序性、科目と授業内容の一貫性)を評価修正しました。授業は、指導案検討と教員間の協働により展開しています。臨地実習は、評価の公平性や課題の明確化に繋がるよう、ルーブリック評価を行いました。変更したカリキュラムの評価と実習評価表の妥当性を検討していきます。	校舎移転後、3年弱が経過し、学習環境として計画的な備品の購入や整備が必要となっています。また、多方面から学習継続のサポートが必要な現状があります。個々の学生状況に応じた支援を行っています。 日常的な教育環境の整備に努め適切な資源やシステムを活用し、学生の学習支援を継続して行っています。	新たな募集活動を実施しましたが、定数の確保はできませんでした。 令和7年度入試に向け、入試やオープンスクールの実施方法を検討修正し、実施していきます。また、広報活動としてホームページ上の情報発信を工夫し積極的に更新を行うなど、定数確保に努めていきます。	国家試験合格率100%、母体病院への就職率80%以上を目標に指導をしています。病院と連携し、卒業生による“看護を語る会”を実施することで学生はポジティブなイメージを持ち就職活動を行っています。 就職支援と卒業サポートの両面からホームカミングデイを実施し、卒業生の状況を踏まえ教育評価にも繋げていきます。	学生による地域住民への健康教室や病院内でのミニコンサートを実施しました。また、地域清掃やボランティアの参加は継続しています。 学生と地域住民の方々の交流を継続し、更に学びの機会として内容と方法を検討することで、地域を知り地域に貢献したいと思う学生の育成を目指します。	校内のシミュレーション研修の実施や近隣の看護学校及び看護系学校連絡協議会主催の研修を通して、教育方法を学んでいます。また、地域交流を意識した教育活動を課題として取り組んできました。 教育活動としての地域交流を更に発展させ、教育成果としてまとめられるよう努めていきます。	各種申請や報告は期日までに速やかに行い、法令に基づいた管理運営を行っています。ハラスメント防止に関しては、現状に合わせ学生用マニュアルの見直しをしました。 ハラスメント防止について学生への周知を行い、教職員・学生共に透明な環境づくりに引き続き取り組んでいきます。

## 令和6年度 自己評価・学校関係者評価結果

— 教員 — 関係者

